超・開業力
在宅医療・クリニック経営の新常識と新城式
新城拓也＝著

定価：本体 3,500 円＋税
A5・212 頁／金原出版／2017
[ISBN：978-4-307-00479-4]

ある勤務医の人生の転機を追体験する

評者｜**堀木優志** 市立伊丹病院消化器内科医長

著者の新城拓也先生（神戸市、しんじょう医院）は、緩和医療という、患者それぞれの人生背景の多様さや個別性を重んじるがゆえにエビデンスを構築しにくい領域で、その構築に尽力している第一人者である。しかし、エビデンスや標準化されたガイドラインを臨床現場に適用しようとすると、それぞれの患者には個別の事情があるので、エビデンスとの間に乖離が生じてしまい、現場の医療者はモヤモヤとした感情を抱くことになる。

著者は、自身の経験だけで医療や患者を理解してしまうことの危険性を訴えながらも、医療者がエビデンスと臨床現場との乖離に感じるモヤモヤを理解し、その本質は何か、うまく言語化できない思いを上手に表現し解説する。それゆえ、著者の講演やブログは、いつも大人気である。

ほぼすべての医師は、勤務医としてそのキャリアをスタートしているはずであるが、統計によると 23.2％の医師が診療所の開設者または法人の代表者として登録されている（医師・歯科医師・薬剤師調査の概況、厚生労働省、平成 26 年）。その医師らは、人生におけるどこかの転機で開業を決意したはずである。ただ、その転機が何であったか、それをどう捉え、何を迷い、どう決断したのかを上手に言葉にできる人は少ない。

本書では、全く開業を考えていなかった 1 人の勤務医（私自身も今まさにそうである）が、開業を決意するまでの心の動きが丁寧に綴られ、医局や医師会とのやりとりも生々しく書かれている。著者と同じ道を進むかどうかにかかわらず、自分の人生の道標として役に立つだろう。人生の転機、そのサインを見落とさないように。

では、いざ開業を決意した時に、どこから情報を得て、何を準備すればよいのだろうか。本書は、「決意」「準備」「開業後」の 3 章構成になっている。「準備」の章では、医院を開設するまでに集めた情報や物品の入手先、その評価までがありのままに綴られている。今まさに開業を考えている諸先生方には、具体的なノウハウとして大変参考になるに違いない。開業資金を圧縮するための具体的な方策も披露されている。

「開業後」の章は医院を運営していくうえで生じた問題に、最新のガジェットを利用してどのように対処してきたかが綴られている。著者の目で判断した忌憚ない意見が述べられている。また、運営上の問題の多くは、看護師・薬剤師・ケースワーカー・事務員など他職種との関係や連携の問題でもある。それを解決していく手法には、医院運営に携わる人だけではなく、多職種でのチーム医療に取り組む人たちにも役立つヒントがちりばめられている。

本書は、開業を準備している医師のためだけに書かれたハウツー本ではない。ある 1 人の医師の人生に訪れた転機を追体験することによって、人生における自分自身の現在の立ち位置を振り返る本である。そして、著者の臨床に対する哲学を通じて、自分自身の臨床のあり方を見直すきっかけになるだろう。G

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2017

2026/09/15 13:31:56